

宮崎に Uターンしました!

Living in Miyazaki

宮崎で暮らす・働く

宮崎の豊かな自然や温かな人にひかれ、UターンやIターンしてきた人たちがたくさんいます。宮崎暮らしには、どんないいところがあるのか、3人の移住者に話をうかがいました。



宮崎に Uターンしました!



東京から宮崎へ

大見さんは北海道札幌市の出身。東京での生活には何の不自由さも感じていませんでした。ただ、新宿駅前にあった自宅アパートの窓からは、隣のビルの灰色のコンクリートの壁しか見えず、息が詰まるような日々でした。

移住しようと言いついたのは妻の久美子さん(36)でした。最初にふるさとの北海道が頭に浮かびましたが、久美子さんのイチオシは宮崎。高千穂を旅行した時に感じた神秘的な雰囲気がとても気に入ったそうです。「自然が豊かなところへ」と考えていた大見さんも賛同しました。

2017(平成29)年12月、宮崎での新しい生活が始まりました。

手に入れた宝物

綾町の貸し家に居を構えました。田園に囲まれた静かな場所で、自然を身近に感じる喜びがあります。「人の好き」も魅力です。東京にはない、人とのふれあいを感じる暮らしです。「食べ物も安くておいしい」と大見さん。豊かな自然、おいしい食べ物、人とのつながり。「自分」を取り戻した2人が手に入れた宝物です。

子育てを楽しむ

東京時代を含めて介護職のキャリアが約10年になる大見さん。タップダンス、パントマイムのステージに立っていたという異色の経歴を持っています。勤務先でのレクリエーションでは、その経験を生かして利用者と楽しい時間を過ごしています。「相手に喜んでもらうことで自分も満たされる」。この充実感が仕事のやりがいになっているようです。

大見さん夫妻は、この地で2人の子どもに恵まれました。3歳の長男と昨年3月に生まれた次男。子育てに追われる毎日ですが、久美子さんは時々農家のアルバイトをするなど、心豊かな生活を楽しんでいます。周囲の環境も子どもの情緒や健康にいい影響を与えているようで、宮崎は親子4人の故郷になりました。



東京から宮崎にUターン 親子4人の新たな故郷に

おおみ つよし

大見 剛さん

綾町在住・北海道出身
介護福祉士
55歳・Uターン歴4年2カ月(※2022年2月現在)
介護付き有料老人ホーム「やすらぎの杜」勤務



移住希望者へのアドバイス

移住したい理由をはっきりさせ、家や仕事などの生活基盤を整えることが第一。インターネットやSNSなどの情報をうのみにするのではなく、自分の目で確認し、どう感じるかが大切です。理想を高く掲げ過ぎないことも重要。現実とのギャップが大きいと失望感も大きくなります。価値観が異なる場所での生活には柔軟性も必要です。

Our Holiday

休日の過ごし方

休日の主な遊び場は公園。自宅の周囲には大小さまざまな公園があるので、親子で楽しく利用しています。3歳の長男は滑り台が大好き。屋外での遊びを満喫しているようです。公園では時間がゆっくり流れていきます。東京ではなかなか味わえないひとときです。



宮崎に Uターンしました!

子どもを育てる最高の環境 育児と仕事の両立を実現

よしの ともみ
吉野 公美さん

日南市在住・千葉県出身
訪問看護師
37歳・Uターン歴6年10ヵ月(※2022年2月現在)
はまほう訪問看護ステーション勤務



きれいな空気と自然が決め手に

人を助ける仕事に就きたいと救命救急士を目指しましたが、「結婚や出産後も働き続けるのなら看護師がいい」という父親のアドバイスを受けて看護師の道へ進みました。移住先を宮崎に決めたのは、長男がぜんそくで入院を繰り返したのがきっかけでした。移住相談会で、きれいな空気と豊かな自然にひかれて日南市に決めました。



仕事を通じて地域に溶け込む

地域のことを早く知りたいという希望もあり、訪問看護ステーションに勤務することにしました。

「訪問看護は利用者の暮らしや家族の意向を尊重でき、ゆっくり話ができる点がいい」と吉野さん。コミュニケーションが深まったおかげで困りごとが分かり、病状改善につながったこともありました。

今は古民家の借家に一家6人で暮らしています。「東京では保育所に入るのも大変でしたが、宮崎は子どもを育てるのにすごくいい環境です。成長を見守りながら仕事を続けられそうです」と話しています。



Our Holiday

休日の過ごし方

主人も私も、ダイビングやサーフィンなどのマリンスポーツが趣味。また子どもが小さいので、休日は海岸で遊ぶことが多いのですが、将来は家族全員でマリンスポーツができるのを楽しみにしています。



宮崎は自然いっぱい!

海と人に魅了され移住を決意 家族に囲まれ、仕事できる喜び

はま かずひろ
濱 一弘さん

宮崎市在住・福岡県出身
理学療法士
38歳・Uターン歴3年6ヵ月(※2022年2月現在)
介護老人保健施設「サンヒルきよたけ」勤務



宮崎は自分に合っている

福岡で理学療法士として働いていた濱さん。サーフィンが大好きで、宮崎に通い詰めるうちに、海だけでなく人にも魅了されました。ゆっくりとマイペースな宮崎の人たち。「気ぜわしくない宮崎が自分に合っているのではないかと、いつしか本気で移住を考えるようになりました。



古い知人のように親しく

宮崎市の施設に就職した濱さんは、利用者や職場の人たちとすぐに交流を深めました。方言や食べ物などについて気さくに教えてくれる職場の仲間たち。自然体でやりとりできる雰囲気が気に入っています。

利用者は「人生の先輩」として接し、熱心に話を聞きます。「いろいろな面で勉強になります。私の話にも耳を傾けてくれ、古くからの知り合いのようです。皆さんに頼られるのがうれしい」と話します。

濱さんは2年半前に結婚。昨年3月には女の子を授かりました。この地で仕事を続け、人と自然にかかわり続けていきたいと考えています。



1歳の娘さん



Our Holiday

休日の過ごし方

独身時代は早朝からサーフボードを抱えて海岸に向かいましたが、今は午前中だけ。午後は家族サービス。自宅近くの遊具のある公園や子育て支援施設で、子どもと一緒に過ごす時間が増えました。



移住希望者へのアドバイス

知り合いがいなかったのが当初は不安でしたが、子どもや仕事、移住者同士の交流会などでつながりができました。皆さん面倒見のいい人たちなので、いろいろと教えてください。「大丈夫!」と確信できるはずですよ。

移住希望者へのアドバイス

サーフィンがしたいから移住を決めたわけではありません。2~3年かけてUターンの相談窓口は何度も足を運んで情報を集め、じっくりと検討を重ねました。職場も見学したうえで決めました。何事も自分の目で確かめることが重要です。